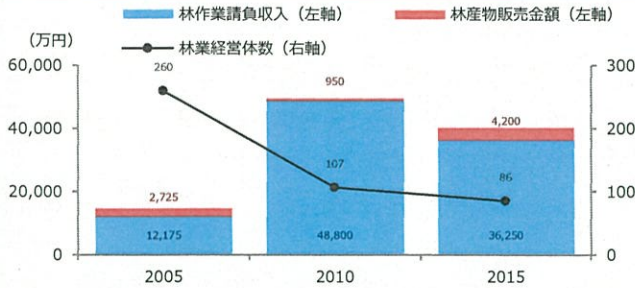


① 林業総収入・林業経営体数の推移

産業構造マップ>林業>林業総収入 → (ダウンロードデータより作成)

- ・林業総収入と林業経営体数の推移を表示しています。
- ・林業の拡大・縮小傾向を、総収入と経営体数の変化から概観します。



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工
 【注記】林業総収入 = 林産物販売金額 + 林業作業請負収入
 林産物販売金額 = Σ (各階層中位数 × 各階層経営体)
 林業作業請負収入 = Σ (各階層中位数 × 各階層経営体)
 最上位層の中位数は 7 億円として推計。
 「林業作業請負収入」とは、農林業センサスにおける受託料金を指す。
 林業を請け負ったことにより得た収入をいい、諸経費、人件費を差し引く前の金額をいう。

② 林業部門別延べ経営体数

産業構造マップ>林業>林業総収入 → 「林業部門別延べ経営体数」→ (ダウンロードデータより作成)

- ・各林業部門の販売・請負を行った延べ経営体数を概観します。
- ・特化係数（自地域における部門Aの延べ経営体数比率 ÷ 全国における部門Aの延べ経営体比率）が 1 よりも大きな部門は、全国傾向よりも構成比が大きくなっており、特徴的な部門といえます。

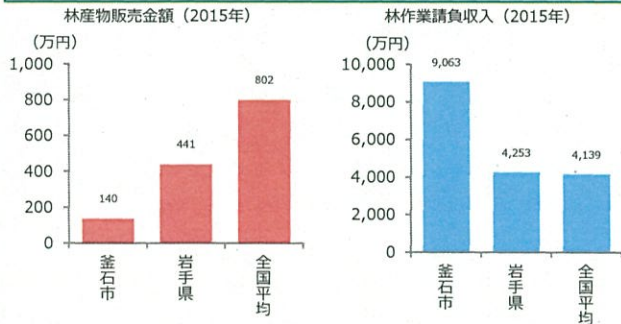


【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

③ 経営体あたり林業収入（地域間比較）

産業構造マップ>林業>林業総収入 → (ダウンロードデータより作成)

- ・経営体あたりの林産物販売金額を比較します。
- ・他地域と比較した自地域の生産性の高低を概観できます。

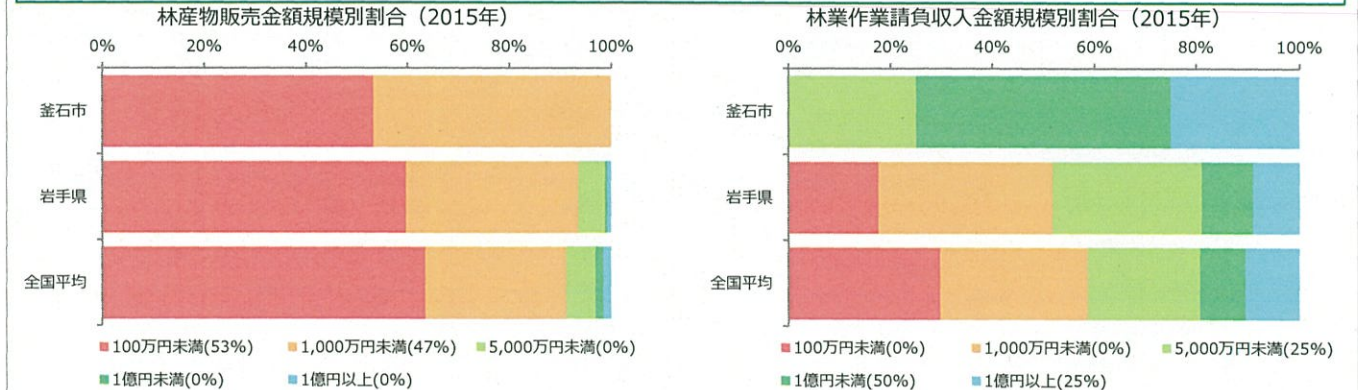


【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工
 【注記】林業総収入 = 林産物販売金額 + 林業作業請負収入
 林産物販売金額 = Σ (各階層中位数 × 各階層経営体)
 林業作業請負収入 = Σ (各階層中位数 × 各階層経営体)
 最上位層の中位数は 7 億円として推計。
 「林業作業請負収入」とは、農林業センサスにおける受託料金を指す。
 林業を請け負ったことにより得た収入をいい、諸経費、人件費を差し引く前の金額をいう。

④ 林産物販売金額別経営体割合および林業作業請負収入金額別経営体割合（地域間比較）

産業構造マップ>林業>林業総収入 → 「グラフを表示」

- ・林産物販売金額および林業作業請負収入金額についての経営体割合を地域間で比較します。
- ・自地域の林業経営体の経営規模を販売額の大きさの観点から概観できます。

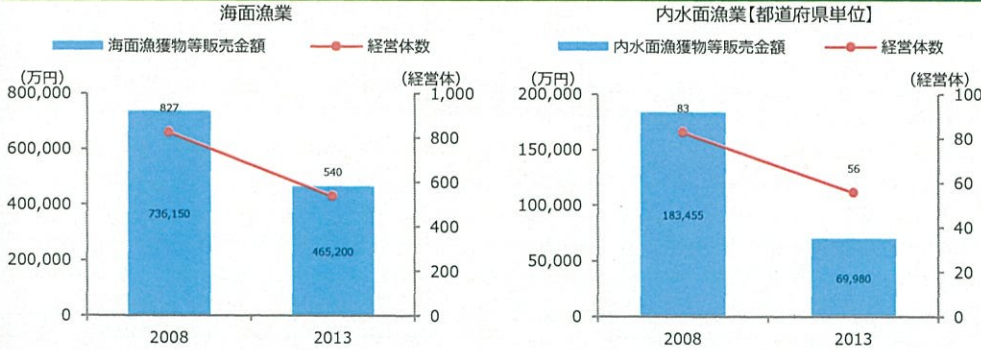


【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工
 【注記】林業作業請負収入とは、農林業センサスにおける受託料金を指す。林業を請け負ったことにより得た収入をいい、諸経費、人件費を差し引く前の金額をいう。
 凡例の数値は選択地域の数値を指す。

①漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移

産業構造マップ>水産業>海面漁獲物等販売金額 → 「グラフを表示」(ダウンロードデータより作成)
産業構造マップ>水産業>内水面漁獲物等販売金額 → 「グラフを表示」(ダウンロードデータより作成)

- ・海面漁獲物等販売金額と経営体数、および内水面漁獲物等販売金額と経営体数の推移を表示しています。
- ・拡大・縮小傾向を、販売金額と経営体数の変化から概観します。



【出典】 農林水産省「漁業センサス」再編加工
【注記】 販売金額=Σ(各階層中位数×各階層経営体数) 最上位層の中位数は海面漁獲物16億円、内水面漁獲物1億5千万円として推計。
海面漁獲物等販売金額には海面養殖販売金額が含まれる。
内水面漁獲物等販売金額は、湖沼漁業販売金額(湖沼における養殖の収穫物を含む。)及び内水面養殖販売金額の計である。

②経営体あたり漁獲物等販売金額 (地域間比較)

産業構造マップ>水産業>海面漁獲物等販売金額 → 「グラフを表示」(ダウンロードデータより作成)
産業構造マップ>水産業>内水面漁獲物等販売金額 → 「グラフを表示」(ダウンロードデータより作成)

- ・海面漁業、内水面漁業のそれぞれについて、経営体あたりの漁獲物等販売金額を比較します。
- ・自地域の水産業の生産性の高低を概観できます。

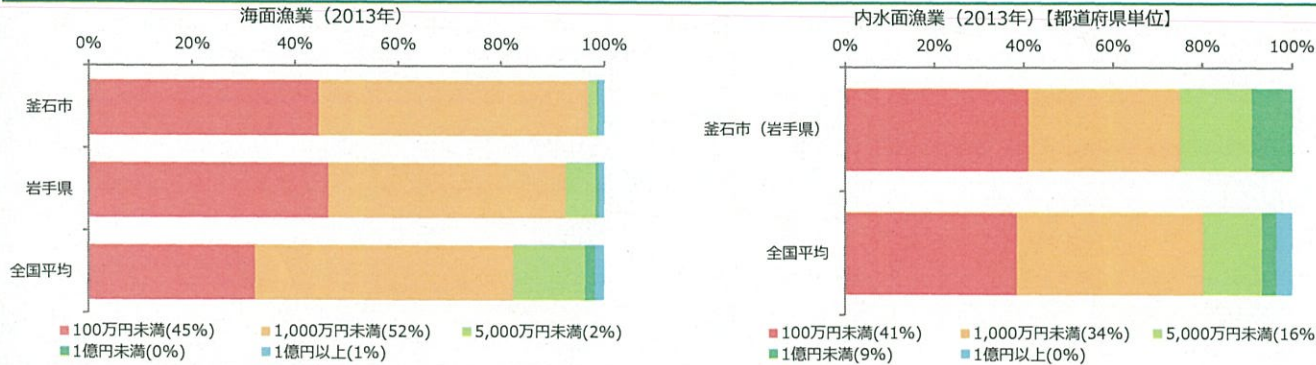


【出典】 農林水産省「漁業センサス」再編加工
【注記】 販売金額=Σ(各階層中位数×各階層経営体数) 最上位層の中位数は海面漁獲物16億円、内水面漁獲物1億5千万円として推計。
海面漁獲物等販売金額には海面養殖販売金額が含まれる。
内水面漁獲物等販売金額は、湖沼漁業販売金額(湖沼における養殖の収穫物を含む。)及び内水面養殖販売金額の計である。

③漁獲物等販売金額帯別経営体割合 (地域間比較)

産業構造マップ>水産業>海面漁獲物等販売金額 → 「グラフを表示」 産業構造マップ>水産業>内水面漁獲物等販売金額 → 「グラフを表示」

- ・海面漁業、内水面漁業のそれぞれについて、漁獲物等販売金額帯別にみた経営体の構成比を地域間で比較します。
- ・自地域の経営体の経営規模を販売額の大きさの観点から概観できます。

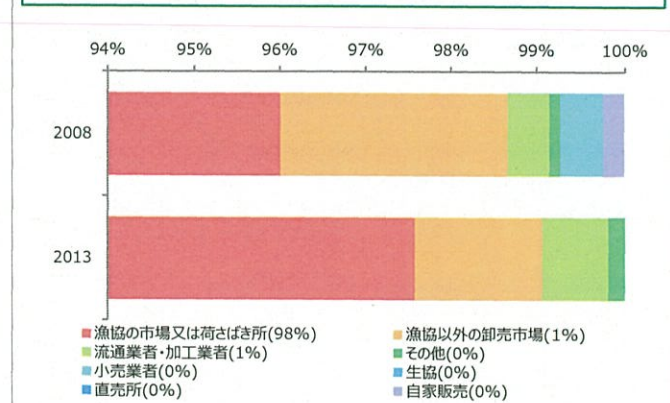


【出典】 農林水産省「漁業センサス」再編加工
【注記】 販売金額=Σ(各階層中位数×各階層経営体数) 最上位層の中位数は海面漁獲物16億円、内水面漁獲物1億5千万円として推計。
海面漁獲物等販売金額には海面養殖販売金額が含まれる。
内水面漁獲物等販売金額は、湖沼漁業販売金額(湖沼における養殖の収穫物を含む。)及び内水面養殖販売金額の計である。
凡例の数値は選択地域の数値を指す。

④海面漁獲物等出荷先別経営体数の割合

産業構造マップ>水産業>海面漁獲物等販売金額 → 「漁獲物等出荷先別販売金額」(ダウンロードデータより作成)

- ・海面漁獲物の出荷先別経営体数割合の推移を示しています。
- ・販路拡大、流通チャンネル分析等の基礎となる情報です。



【出典】 農林水産省「漁業センサス」再編加工
【注記】 凡例の数値は最新年の数値を指す。

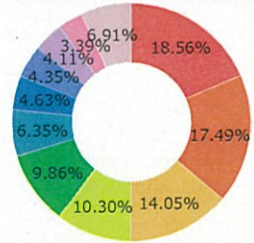
①(日本人)休日14時に指定地域に滞在した人口の居住都道府県別割合

まちづくりマップ>From-to分析(滞在人口) → 「グラフを表示」

- ・休日14時に自地域に滞在した県外居住者について居住都道府県別構成比を示しています。
- ・休日日中にどこからの訪問者が多いのかを把握できます。

滞在人口合計：31,788人 (うち県外居住者：2,505人 県外割合：7.88%)
(2020年1月・休日14時)

県外居住者の地域別構成割合



- 1位 東京都(465人)
- 2位 宮城県(438人)
- 3位 神奈川県(352人)
- 4位 埼玉県(258人)
- 5位 千葉県(247人)
- 6位 福島県(159人)
- 7位 青森県(116人)
- 8位 北海道(109人)
- 9位 山形県(103人)
- 10位 秋田県(85人)
- その他(173人)

【出典】株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」
【注記】滞在人口とは、指定地域の指定時間(4時、10時、14時、20時)に滞在していた人数の月間平均値(平日・休日別)を表している。
滞在人口率は、滞在人口(株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」)÷国勢調査人口(総務省「国勢調査」夜間人口)で表される。
15歳以上90歳未満の人口を対象。

②観光施設等を目的地とした検索回数ランキング

観光マップ>国内>目的地分析 → 「目的地検索ランキングを表示」

- ・自地域の観光施設等で、経路検索サービスにおいて目的地として検索された回数の多いものを表示します。
- ・自地域において集客力のある観光施設を把握できます。



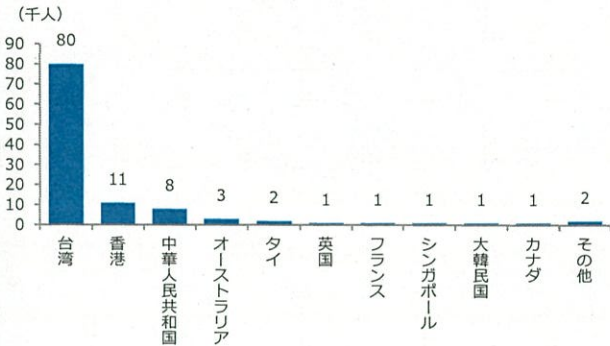
【出典】株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」
【注記】検索回数は、同一ユーザーの重複を除いた月間のユニークユーザー数。下記条件に全て該当した場合のみ表示。
・施設分類が、観光資源、宿泊施設や温泉、広域からの集客が見込まれるレジャー施設や商業施設に該当
・年間検索回数が自動車は50回、公共交通は30回以上
・年間検索回数が全国1000位以内または都道府県別50位以内または市区町村別10位以内

③(外国人)指定地域への国・地域別外国人訪問客数【都道府県単位】

観光マップ>外国人>外国人訪問分析 → 「指定した都道府県で分析する」

- ・外国人訪問客数を国・地域別に示しています。
- ・どこからの訪問者が多いのかを概観できます。

2019年



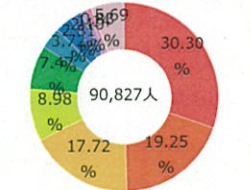
【出典】観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」
【注記】「地域別の訪日外客数=地域別の訪問率(観光・レジャー目的)×訪日外客数×旅行目的別構成比(観光・レジャー目的)」により推計している。

④(外国人)指定地域への移動相関分析【都道府県単位】

観光マップ>外国人>外国人移動相関分析 → 「グラフを表示」

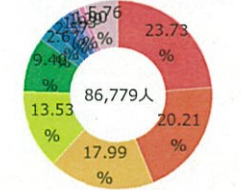
- ・自地域に滞在した外国人訪問客が、直前・直後に滞在していた地域を示しています。周遊ルート等の検討に活用できる情報です。

直前に滞在した地域(2018年)



- 1位 青森県(27,522人)
- 2位 宮城県(17,483人)
- 3位 秋田県(16,099人)
- 4位 岩手県(8,160人)
- 5位 東京都(6,781人)
- 6位 山形県(3,378人)
- 7位 北海道(2,550人)
- 8位 福島県(1,906人)
- 9位 千葉県(1,031人)
- 10位 栃木県(750人)
- その他(5,167人)

直後に滞在した地域(2018年)



- 1位 宮城県(20,596人)
- 2位 青森県(17,539人)
- 3位 秋田県(15,610人)
- 4位 岩手県(8,160人)
- 5位 東京都(11,737人)
- 6位 山形県(2,318人)
- 7位 栃木県(2,233人)
- 8位 福島県(1,592人)
- 9位 北海道(1,121人)
- 10位 千葉県(871人)
- その他(5,002人)

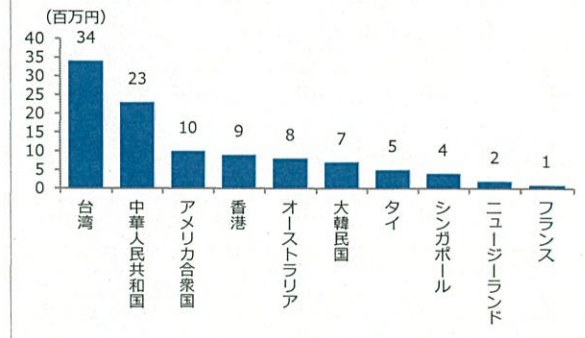
【出典】国土交通省「FF-Data(訪日外国人流動データ)」

⑤(外国人)指定地域内での国・地域別消費額【都道府県単位】

観光マップ>外国人>外国人消費の比較(クレジットカード) → 「指定した都道府県で分析する」

- ・外国人によるクレジットカード消費額を国・地域別に示しています。
- ・どの国・地域からの訪問客による消費が活発なのかを概観できます。

2019年9月



【出典】ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社のカードデータを再編加工
【注記】消費額は、外国人訪問客がクレジットカードを使用した消費額を地域別のシェア率等から算出した金額。
国・地域は、カード所有者の居住地であるため、観光客以外の永住者・定住者による消費額も含まれる。